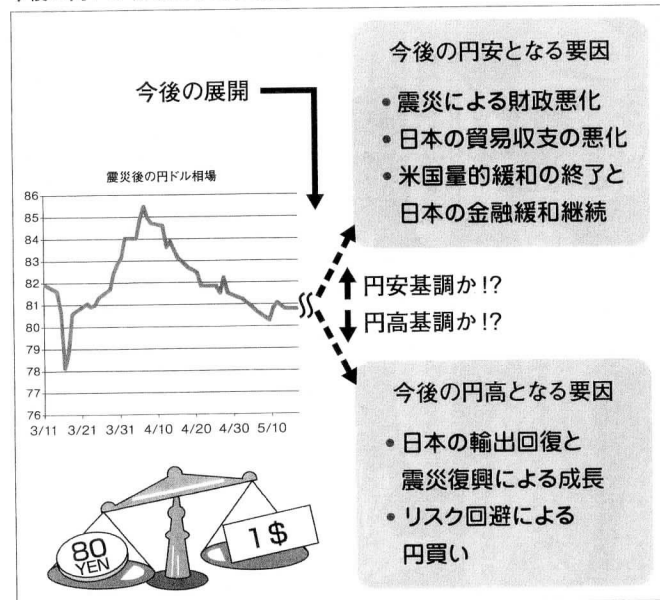


今後の円ドル相場に与える要因



底であると考えているケース、②円はしばらく80円前後で推移すると考えているケースにおける金融商品の提案例をみていこう。

まず、①のケースであるが、円は今が底であると考えているお客様には、追加で同じファンドを購入

入する、もしくは別途新しく外貨建てのファンドを購入することを勧めようか。

現状、保有のファンドでは損失が出ていてと想定されるが、基準価額が下落しているため追加での購入により平均購入額は抑えるこ

ケーススタディ ●追加購入につなげるための上手な提案法

# お客様の相場観を踏まえてこんな商品も提案しよう

ケース①~③ スキラージャパン株式会社  
伊藤亮太 ファイナンシャル・プランナー

ケース④⑤ CFP®  
藤本 壱 DCプランナー2級

ここでは、お客様の運用状況や相場観別に追加購入につなげる提案法をみていく。

## ケース1

基準価額が上がらないことに不安を持つ  
外債型ファンドを保有するお客様



## 円相場が今が底だと考えるお客様には追加購入のメリットを説明する

ドル相場はいつになったら大幅な円安へ振れるのだろうか、そう考えているお客様は多いに違いない。最近の円ドル相場は変動が著しく、短期における見通しを立てるのは難しい。

震災後のわが国の景気悪化の懸念、主要国を巻き込んだ協調介入等の理由から急激な円安をもたらしたかと思えば、4月中旬以降はヨーロッパにおけるギリシャ債務再編への思惑、S&Pによる米国債の格付け見通しの引下げなどからドルやユーロが売られ、円が買戻されたことにより円高基調となっている。

原発問題や中東・北アフリカでの政情不安も、リスク回避による円買いを増長させている側面であることは否めない。また、商品市況の動向にも注意が必要だといえる。例えば原油価格の動向では、4月のWTI先物は続伸したものの、5月初めには欧州中央銀行(ECB)による追加利上げの観測後退等を受け急落している。

商品価格が下落すれば、関連性の高い資源国通貨が売られ、リス

ク回避による円買いが進むことにもなり、短期的にはドル、ユーロ双方において円高が継続するリスクが残存することは忘れてはならない。

ただし、長期的に見れば、円安基調となりうる可能性が高いといえる。例えば、4月の米国連邦公開市場委員会(FOMC)では米国の量的緩和(QE2)、つまり6000億ドルの米国債購入を6月末で終了させる方針を決定した。一方で、日銀による大幅な金融緩和は長期化する模様であるため、今後円安ドル高へ振れる大きな理由の一つとして捉えることができる。

また、震災後の生産面の落ち込み(輸出余力の低下)によるわが国の貿易収支の悪化が見込まれることも円安をもたらすと考えられ、徐々にではあるが円安へ流れが進むと思われる。

**保有ファンドの追加購入や新たなファンド購入を提案**

前記のような考えのもとで、お客様の見通しが①円は今が相場

とが可能となる。いわゆる「ナンピン買い」だ。数年を視野に入れることができるのであれば、今後円安に向かうと想定される今、追加購入をしておくメリットは大きいといえる。分配金収入と為替差益により、今までの損失分がある程度カバーできる、もしくは利益が生じる可能性が高くなるためである。こうした説明や一般的な経済状況の話をを行うことで、損失に対する不安を抱くお客様も、安心して投資の検討を行えるようになると思われる。

外債型ファンドの場合、お客様によっては、分配金を受け取るような選択をしている方もいるであろう。分配金が支払われることは基準価額の下落要因となる。年金代わりや収入として必要なお客様以外は、分配金を再投資することを勧めたい。分配金も再投資に回すことで複利効果が享受できるためである。

特に分配金の利回りが高い場合には、再投資することによる長期で見たパフォーマンスは向上する可能性が高いといえる。このあたりのお話もお客様によっては伝えておくべきであろう。

### まずは短期的な考え方が長期的な考え方が聴取する

次に、②のケースを考えてみよう。円は、まだまだ80円前後で推移するというお客様に対しては、その考えは短期としてのか長期のなかをまず聞いてみたい。

短期的な考えであれば、現状保有するファンドを売却するのは得策ではないと説明し、現状のファンドは分配金収入によって、損

その他、外貨建てMMFも有用であろう。為替差益が非課税となるためである。

想定トーク例②

「円はしばらく80円前後で推移する」と考えているならこんなアドバイスを!



スクはない分、金利変動リスク、収益分配リスクは存在する。現状においてもJ・REITの分配金はほかの金融商品と比較しても高利回りであるため、高利回りに注目して外債型ファンドを購入しているお客様にとっては、J・REITに投資するファンドは魅力的に映るといえる。また、日銀によるJ・REITの購入や金融緩和によるメリットも大きい。

その他、複数の通貨に分散投資することを検討してもよいかもしれない。ドル円相場では円高であっても他の通貨では必ずしもそうとはいえない場合もあり、リスクヘッジが可能な場合もあるためである。

例えば、米ドル以外に高金利通貨で有名なオーストラリア債券に投資するファンドなども投資先として検討してはどうだろうか。人口増加や資源高、政府債務残高(GDP比)の低さなどからオーストラリア投資も魅力的といえる。ただし、前述したように資源安となれば、為替差損を被る可能性がある点には留意したい。

想定トーク例①

「円相場は今が底である」と考えているならこんなアドバイスを!



失がある程度カバーしながら、タイミングを見て追加で購入することや毎月定額で購入していくことを勧めてはどうだろうか。

毎月積立てなどを行うことで、ドルコスト平均法による時間分散が可能となり、購入するタイミングに悩まずに済むといったメリットが享受できる。こうすることで円安傾向となった場合にもあわてずに対応でき、利益を確保することも可能となる。

**J・REITファンドや複数通貨の分散投資を提案**

一方、長期的に見ても円高傾向に変わりはないと考えるお客様には、短期的な考えのお客様と同様に、現状保有するファンドについては分配金収入により損失をカバーしていく。また、解約してほかのファンドを購入したいと希望するもの、為替差益によるメリットを感じられないと考えるお客様には、例えばJ・REITに投資するファンドを提案してはどうだろうか。

J・REITは、為替によるリ